

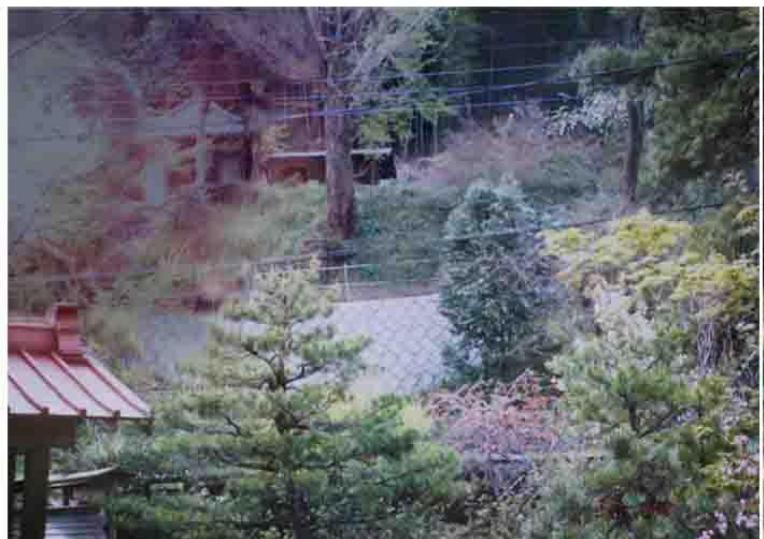
沢入観音堂と関口文治郎の半鐘



左写真：現在の擁壁上の沢入観音堂

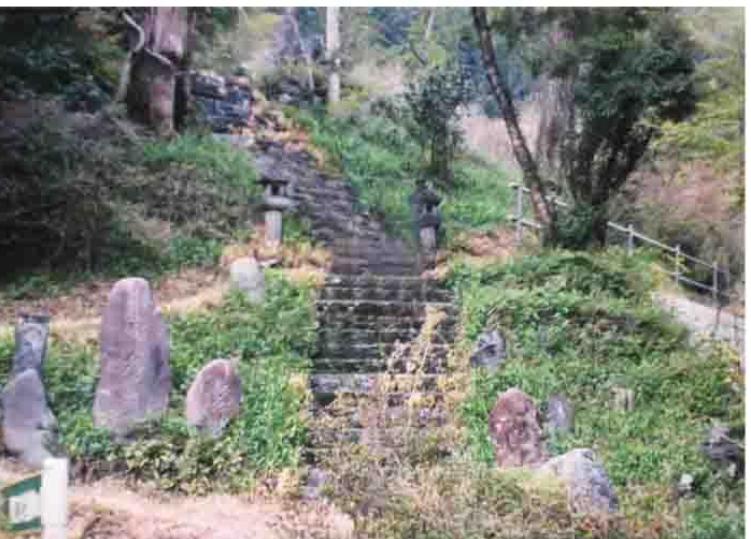


右写真：道路奥に他の石造物とともに市指定天然記念物「沢入観音のイボ石」が有る。工事前の急勾配の石段は一部を除き緩やかなつづれ折りとなっている。



古写真 一部擁壁工事がなされた観音堂

写真向かって左上に観音堂の建物が見える。



擁壁工事前の観音堂へ至る参道

現在は道路脇に有る石造物が参道脇へ配されている。

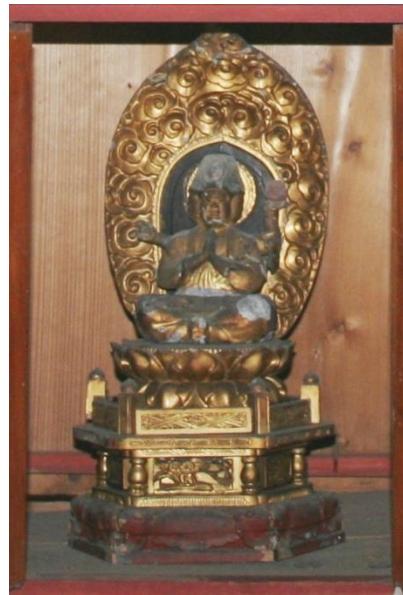


現在の鋼板葺き屋根の観音堂

籠堂は屋根と外壁が改修されている。



昭和 20 年代に茅葺屋根から瓦葺に葺き替えられ外壁も改修された観音堂。籠堂は旧の状態。



観音堂内部 中央に馬頭観音を祀る厨子。 関口文治郎の半鐘も堂内に保管されている。



内部に観音菩薩が納められている石殿 観音堂北東の関口家墓所 写真向かって左に観音石殿

沢入観音堂は、木造寄棟造りの建物で東側の籠堂と対をなし南東に面して沢入川に架かる新観音橋西側の急斜面上に建てられている。北東には関口家の墓所があり、関口文治郎の墓も存在していたが現在は、上田沢地区の医光寺に移転されている。

馬頭観音菩薩は輸送手段であり農業には欠かせない労働力であった牛馬を守る仏として馬方や農民を始めとする人たちの信仰を集めていた。黒保根地区でもこの観音堂のほか、街道沿いなどに馬頭観音が祀られている。特に「馬の七橋参り」と言って七か所の橋を渡ることが縁起が良いとされていたため、沢入川を遡り橋を渡りお参りする沢入観音は遠方からの参拝者も訪れていた。

沢入観音の草創は不明であるが境内の観音像が祀られる石殿には寛永21年（正保元年1644）の銘が見られる。又、堂内の観音像が納められる厨子は天保11年（1840）の作である。かつては、1月17日の祭りの際は、沢入地区の信徒により沿道には燈籠が灯され瞽女や浪曲師等も招かれていた。

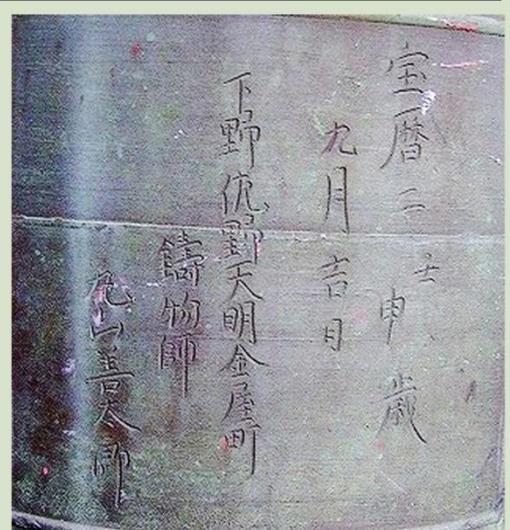
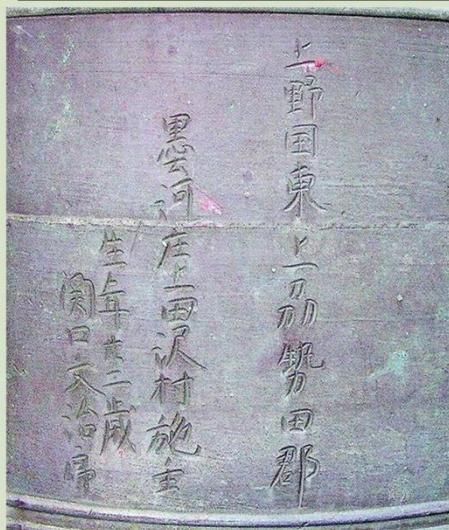
関口文治郎の半鐘は一時期、栗生山麓の上田沢地区旧消防団の鐘楼に吊下げられていたが、平成末に観音堂に戻され現在に至っている。

写真右
厨子内馬頭観音菩薩
三面六臂の坐像であると思われるが右腕と左腕の一部が欠落している。



上野国から施主関口文治郎の名が刻まれた池の間

宝暦の年号と佐野天明の鋳物師丸山善太郎の名が刻まれた池の間



上野國東上田沢村施主 黒河庄上田沢村施主 生年二十二歳 関口文治郎	こうづけのくにひがしじょうしゅうせた ぐるかわしようたざわむらせし せいねんじゅうにさい せきぐちぶんじろう
--	---

宝暦二壬申歳 九月吉日 下野国佐野天明金屋町 鋳物師 丸山善太郎	ほうれきにみずのえさる とし くがつきちじつ しもつけのくにさのてんみようかなやち よう いもじ まるやまぜんたろう
--	---